

精神遅滞児の運動発達に関する遡及調査の試み

大阪教育大学

坂本龍生

研究のねらい

生後まもなく、将来の精神遅滞の予想が可能となる一定の症候群（例えばダウン氏症のような）の場合を別にすると、1年以内に精神遅滞の道ゆきを示すであろうと思われる予測を立てることは、現状では極めて困難であり、むしろそれは危険だといわれている。

精神遅滞について、何をキイにして判断するかは必ずしも明確ではないが、発達のには当初示される乳幼児の“おくれ”の現象は、まず感覚—運動発達の「ひずみ」においてであろうと考えられる。

この研究は乳幼児のどのような時期のどんな動きが精神遅滞への有力な予測指標となるかについて見透しを得るべく意図されたものである。若しその結果として精神遅滞児の多くが初期に感覚—運動発達に遅滞を示すのであれば、第1にこれら乳幼児の運動発達の促進的訓練は、その全体発達に好影響をもたらすであろうと思われること、そして第2に初期の感覚—運動発達像の遅れがある群とない群では精神遅滞の臨床像に相違があるのではないか、特に運動発達の遅れのない群の早期療育の手がかりは何かについて、未来的展望を招くことをねらいとした。このような意図に基き、今回は母親へのアンケートの具体的手つづきのための予備調査を実施した。

方法

1. アンケート作成の手続き

乳幼児の感覚—運動発達について記載されたこれまでの代表的な検査法や、尺度

の中から主として1年未満の項目を蒐集し、最初約200項目を選出した。項目の選択基準は、それぞれの検査法に共通してみられるもの、できるだけ感覚刺激への反応を意図された項目であることに置いた。蒐集に用いた検査法は「乳幼児精神発達検査法」（牛島義友外）、「津守式乳幼児精神発達診断法」、「ミュンヘン機能的発達診断法」「デンバー・スクリーニングテスト法」などで、これに今回の協同研究で、尺度化を試みている北九州市立総合療育センターでの発達評価表からの項目を加えた。さらに大阪府下通園施設の主として4・5歳児の精神遅滞幼児の保育時行動をビデオ及び8ミリに定期的に記録し、その結果の現象分析を行った。この経過で最終的にまとまったのが別表である。

2. 予備調査

北九州市の精神遅滞幼児通園施設、大阪府下の精神遅滞幼児園、及び教育相談室に依頼し、各園児、及び保護者に別表アンケートへの回答をお願いした。

配布総数は約110名、そのうち、回答のあったのは59名、回答率は54%であった。

3. 整理法

別表27項目は上述のとおり、これまでの乳幼児発達検査法に共通し、とりわけ感覚—運動反応を中心とした観察項目が選ばれている。整理に際しては第1に各項目の発達標準月齢から、個々の乳幼児が獲得したと思われる月齢との差を求めた。これを年齢別、性別に集計した。第2に、回答さ

れたもののうち、各通園施設で日常、どちらかという精神遅滞よりは自閉的、多動などの行動障害が前面に見られる幼児と、精神遅滞が中核的に見られる幼児について母親からの回答を比較することを考えた。さきの研究のねらいでのべた初期の運動発達の遅れのない群の臨床像について、われわれはそれが行動障害と結びつきやすいのではないかと推測したためである。実際には行動障害の特徴を示すと回答された幼児が7名程と余りにも僅少であったため、今回は具体的検討で、一定の比較傾向を見出すには至らなかったが、検討に価する課題だと思っている。

結果

- これを予備調査とする理由の一つは、研究の制約上、本来ならば発達の縦断研究が最も望ましい内容のものを、遡及的な形でフォローしたことの限界がある。現在4～5歳にまで成長している施設通園児の親に、特に乳児期に生じたこどもの反応の想起を依頼することは、その確かさを信頼できるかどうかの危惧があった。その確かさが不安定であれば、結果に著しい歪みが生じることになる。従って回答に際して、不明確なものは無回答であってかまわないことを強調して協力を依頼した。不明反応は各項目とも5～3%以下で僅少だったので、事後の本調査が可能となる。
- 現在3歳以上5歳未満で精神遅滞を示している幼児がどのような感覚—運動反応の発達特徴を示すかを、選択した27項目の反応分布から次の三点について検討した。
 - 標準月齢からのDeviationが少いもの。
 - 標準月齢からのNegativeにDeviationが著しいもの。
 - 標準月齢からのDeviationがむしろPositiveなもの。
- 標準月齢からのDeviationがマイナス5か月からプラス5か月の間に集中して分布している項目としては4.「うつ伏せに寝かせて少しあごを上げる」5.「ガラガラを握って眺めたり遊んだりする」10.「支えて坐らせた時、しばらく顔を前に向けてしっかり坐る」16.「ガラガラを一方の手から他方の手へ持ちかえる」20.「ガラガラを振ったりたたいたりする」21.「色々なものを口にもっていき、しゃぶったりかんだりする」の各項目で、主として手の運動に関しては、精神遅滞幼児の発達のズレが小さかった。またPositiveな方向へのズレは余りないが比較的Negativeな反応も小さい項目として極く初期の1.「触れたものを手で握る」2.「弱い光を見つめる」3.「顔をじっと見つめる」などの手及び視覚的的定位反応が挙げられる。これらの特徴から精神遅滞幼児は初期の運動発達において視覚及び手の運動の歪みは小さいことが伺見されるが、逆にいうと手の運動の歪みは早期に精神遅滞を判断する指標になるのではないかと推測された。
- 標準月齢からの逸脱度の大きな項目として15.「母親をさがしたり、母親がいなくなると泣いたりする」16.「話しかけると声で応答する」22.「親指と人差し指で物をつかめる」26.「ものを相手に渡せる」などに集中している。つまり対人認知につながるような刺激反応あるいは微細な運動反応は精神遅滞幼児の初期反応のズレが大きい。このような傾向がわれわれの抱いている行動障害として発展する知恵おくれのパターンとどのように関連するか興味あるところで、事後の研究に待ちたい。
- 標準月齢からの逸脱が余り見られない初期の運動反応として、7.「おとなしく抱かれる」8.「音のした方向に首を廻す」9.「そばを歩く人を目で追う」14.「目が覚めている時と眠っている時の区別がはっきりしている」の各項目がある。特に顕著な共通性があるようには見えないが、8.9のような視・聴定位反応は、精神遅滞を予測する重要なキイにはなりにくいようである。

6. 相談室で蒐集したアンケートのうち6名はダウン氏症の幼児のものであったが、他児と比較して、例えば極く初期の反応(1. 2. 3項など)などに殆んどズレが見られなかった。
7. 精神遅滞幼児の初期運動反応に関しては性差も見られなかった。

まとめ

この研究は精神遅滞児が初期に運動の発達

遅滞を示すとすればどんな側面においてであろうかということと運動発達遅滞を伴わない精神遅滞の臨床像を明らかにする目的で適及的方法によってアンケート調査を実施した。59名の回答から、手の動きが精神遅滞を判断する標準サインになるであろうという事実と、行動障害へ発展する幼児ほど、顕著な運動の遅滞を伴わないであろうという予測への手がかりが得られた。

お子さまの運動発達についてのアンケート

(おねがい)

このアンケートは、お子さまのこれまでの発達の様子をお尋ねするものです。これは発育の遅れと、運動の遅れの関係を知り、これからのお子さまの教育について考えていきたいという願いによるものです。御多忙中、恐れいたしますが是非御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、この資料をそのまま使用することは決してありません。何卒、よろしく重ねてお願いいたします。

大阪教育大学 障害児教育教室
坂本 龍生

記入の仕方

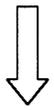
1. 番号1から番号27までお子さまの現在の状態を書いてありますので、それぞれについて現在できるか、できないかを○でかこんで下さい。わかりにくい項目もあると思いますが、なるべくお母さんなりの判断で記入してください。
2. 次に、できるというところに印をつけた項目について、それが何時、できることに気づいたかを大體で結構ですので教えて下さい。こちらの方がもっとわかりにくいかもしれませんが、どうしても記入できないときは、そのままにしておいていただいても結構です。何卒よろしく御協力の程おねがい申し上げます。

- | | | | | |
|--|-----|-------|------|---------|
| 1. 手に触れたものを手で握る..... | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 2. 弱い光を見つめる..... | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 3. 顔をじっと見つめる..... | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 4. うつぶせに寝かせて少しあごを上げる..... | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 5. ガラガラを握って、ながめたり、遊んだりする..... | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 6. あお向きから横向きに寝返りをする..... | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 7. おとなしく抱かれる..... | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 8. 音のした方向に首をまわす..... | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 9. そばを歩く人を目で追う..... | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 10. 支えてすわらせたとき、しばらく(20分くらい)顔を前に向けてしっかりすわる..... | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |

- | | | | | |
|---|-----|-------|------|---------|
| 11. 体のそばにあるガラガラに手をのばしてつかむ・・・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 12. ガラガラをさし出すと、すぐに手を出してつかむ・・・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 13. 抱いたときなど大人の顔をいじったりする・・・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 14. 目が覚めているときと眠っているときの区別がはっきりしている・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 15. 母親をさがしたり、母親がいなくなると泣いたりする・・・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 16. ガラガラを一方の手から他方の手へ持ちかえる・・・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 17. 話しかけると声で応答する・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 18. 色のついているもの（明るい色のもの）により強い関心を示す・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 19. 床に落ちている小さなものを注意してひろう・・・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 20. ガラガラを振ったり、たたいたりする・・・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 21. 色々なものを口にもっていき、しゃぶったり、かんだりする・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 22. 親指と人差し指で物をつかめる・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 23. 支えなしでしっかりすわれる・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 24. つかまって一人で立ち上がれる・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 25. 「はいはい」ができる・・・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 26. ものなどを相手にわたせる・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |
| 27. めちゃめちゃ書きをする・・・・・・・・ | できる | 少しできる | できない | (歳 か月) |



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



まとめ

この研究は精神遅滞児が初期に運動の発達遅滞を示すとすればどんな側面においてであろうかということと運動発達遅滞を伴わない精神遅滞の臨床像を明らかにする目的で遡及的方法によってアンケート調査を実施した。59名の回答から、手の動きが精神遅滞を判断する標準サインになるであろうという事実と、行動障害へ発展する幼児ほど、顕著な運動の遅滞を伴わないであろうという予測への手がかりが得られた。